

スクールフェスティバル企画委員会

委員会紹介

本校文化祭(スクールフェスティバル)の企画・運営の中心を担う委員会！
実行委員72人+企画委員19人、91人の委員で構成されている。

スクールフェスティバルの目的

- ・日頃の学習や部活動を含めた活動の成果を発表する場とする。
- ・日頃のIBの学習者像についての取り組みを補完する機会とする。
- ・自ら考え、判断し、活動できるような力を身につける。
- これらの達成のサポートのための中心的な業務を担う

2025年度のテーマは...

syzygy

この言葉は天文学の用語で、太陽や月、惑星などの天体が地球から見て一直線に並んで見える特別な瞬間を表します。日食や月食、そして「惑星直列」と呼ばれる現象もsyzygyの一例です。普段個々で移動する惑星がまるで息を合わせて直列に並んだように見えることから、ISS生の「団結」や「協力」などの意味や、「ISS生が作り上げるScFが惑星の美しさのように素敵なものになるように」という祈りが込められています。



役割紹介

私たち四役(委員長・副委員長・書記・会計)のほかにも9つ部署があり、基本的には部署ごとの活動となる。四役は、全体の統括や部署の活動のサポートを行う。

四役	参加団体	模擬店	ポスターパンフレット
食飯	舞台	物品	
特別企画	後夜祭	看板装飾	



委員長として...

委員会の代表として全体を統括する。

実行委員会全体が円滑に進むよう、計画を立て、運営・管理をした。それぞれの部署が何をしていた、何に困っているのか常に把握するようにした。

副委員長として...

委員長と協力し、早めに状況を確認し、相談・報告を行う。各団体や委員の話し合いを進行させたり、意見をまとめる役割。副委員長として、全体像での把握、ScFを最優先に動くことを意識した。

書記として...

基本的には委員会の際に議事録をとることが役割。だが、四役の中では固定の任務がないほうなので、自分から動いて仕事をする事、委員長・副委員長の負担を軽減することを意識した。また、四役企画の進行に携わった。

協働スキルの実例

①企画・実行委員全体の統括

【活動内容】

- ・実行委員全体への連絡
- ・各部署の活動内容(進捗)・困っていることの共有
- ・各部署の進捗管理
- ・各部署チーフとのやり取り(確認、アドバイス等)



【共働スキルとの関わり】

前提:協働スキル=立場・役割・意見の異なる人たちと、共通の目標に向かって成果を出す力

実行委員全員が同じ方向を向いている状態にした

→連絡は、全員に「確実に」伝わるように！

- ・重要な連絡は計画的に前持って連絡する
- ・整理して物事を伝える
- ・Teamsで何度かリマインドする
- ・定期的に全員が理解できているか確認する
- ・1年生や初めて委員会に入る人にもわかるように、分かりやすく、丁寧に伝える

「共通認識」

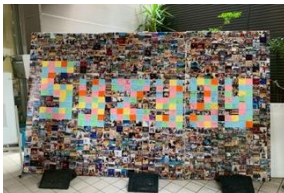
活動で実行委員1人1人を細かく見ることはできない→動かす相手は全員ではなく各部署のチーフ・実行委員会後に各部署のチーフを集めて部署ごとの進捗・困っていることを共有し、部署同士が円滑に連携できるようにする

- ・全チーフが見れる部署ごとの予定表を作成し、記入を促す
- ・進捗や今後の計画等が心配な部署には、チーフに確認の連絡を入れ、場合によっては一緒に進める
- ・各部署の書類や部署内の連絡等はすべてチェックフィードバックをする
- ・チーフに活動のアドバイスをする

【改善点】

企画委員会でもっと全員が発言しているような場・雰囲気を作る。

②四役企画 ピクセルアート



【活動内容】

四役企画の立案・実施。毎年、スクフェスをよりよいものにするために四役がオリジナルの企画を考える。今年度は、全校生徒のスクフェス準備の様子の写真を集め、テーマ「SYZYGY」をかたどりに、その中に当日来場者にコメントを書いてもらった付箋を貼ってもらうという企画を行った。

【活動の流れ】

- 立案、企画書提出
- ↓
- ピクセルの大きさ・写真数など細
- ↓
- 全校生徒から写真募集
- ↓
- 写真の印刷・カット・ボードへの糊付け
- ↓
- 当日！(お客さんに付箋を貼ってもらう)



【協働スキルとの関わり】

- 互いに意見を出し合い、様々な役割を分担し、自ら引き受ける
- 例. 委員会時にTODOの確認、分担+他の部署の委員も巻き込み写真カットや糊付け

前:個人作業のほうが好き、「自分で全部やれるのに...」
→今:個人が進めてしまっても周りが状況を把握できず、結局余計に時間がかかる。みんなで相談する場を設けることで「私企画書書くよ!」「じゃあ私ボードについて先生に相談するね」など協働が生まれる!

【改善点】

ドタバタ進行:ピクセル数・ボードの大きさ・写真を集める範囲などの細部決定に手間取り、最終的に仕上がったのは当日...
→四役全員で「やらなければいけない」認識の強化、集まるごとに進捗を確認する

③先生、学外の方との関わり

【活動内容】

- ・STAFF Tシャツの制作
- ・屋台食飯
- ・先生へ相談
- ・委員会内での議論、共有



【協働スキルとの関わり】

報!連!相! 信頼!

スタッフTシャツの発注では、デザイン案を実行委員から集め、意見を調整しながら一つに決定し、顧問の先生への相談・確認を経て、業者への発注までを一貫して担当しました。進捗状況は随時共有し、変更点があった際にはすぐに先生に相談することで、トラブルなく期日までに準備を進めることができた。

ピザラ、CoCo壱番屋、サーティワンアイスクリームの方に食飯の依頼をした際には、外部の方と主にメールでやり取りを行った。

企業とのメール連絡だったため、文面や礼儀に気を配りながら、企画内容や条件を分かりやすく説明した。連絡・相談・報告を丁寧にを行うことで、相手に安心感と信頼を持ってもらうことを意識した。今までの学校内の連携とは異なり、信頼を失ってしまうと取り戻すことができない経験は、責任感を持って人と協働する力を養った。

【改善点】

外部とのメール連絡において、返信が3日間遅れてしまったことがあった。会計管理ではお金が合わない場面や、委員会が期限内に入金しないトラブルがあり、情報共有や確認体制が不十分だった。外部の方へは、出店条件やゴミ処理の方法について、事前に明確なルールを決めて共有できていなかった。今後は、迅速な連絡を心がける力、ルールや条件を事前に整理して共有する力、お金や役割を一人でなくチームで管理する力を伸ばしていきたい。

次の行事では、早めの相談とこまめな報告・連絡を徹底し、全員が同じ情報を持って協力できる環境づくりを意識して取り組みたい。

